

「冒険しないタイプ。」

「おれ川崎周辺に まだ住んでいる」

荒木秀一氏



1000万円の懸賞金

がかかっているとあつて、にわかバウンティハンター(賞金稼ぎ)が目の色を変え、行方を追う騒動にもなっている。逃亡者の逮捕、連行を専門とする米FRP捜査官で本職のバウンティハンターである荒木秀一氏のプロファイリングは近場説だ。

「逃げるとなっても以前に住んでいた所や土地勘がある場所でないといけないもの。見知らぬ土地で追いかけれ裏道を知らずに袋小路に入ること」を最も恐れる」

英国人英会話講師リンゼイさん殺害事件で逃亡した市橋達也

受刑者(33)は、整形後の顔写真が公開された後に大阪南港のフェリー乗り場で捕まった。最後は、一時身を潜めていた沖繩・オーハ島へ移動しようとしていた。やはり土地勘のある場所だった。

高橋容疑者が逃亡生活を送った場所で判明しているのは、出身地の神奈川県川崎のほか横浜、埼玉・所沢などが、荒木氏は川崎周辺に「まだ潜んでいる可能性も指摘する。」

「10年以上も川崎に住んでいたところから、冒険しないタイプ。他人の住民票を引っ張り、銀行口座を開設するなど賢く、川崎に別の隠れ家を事前に確保していてもおかしくない」と荒木氏は話している。

今どこに…プロの「賞金稼ぎ」はこう読む